

2月16日(木) 2階アトリエ 9:00~9:40

1 題材名 アートカードで考えよう

2 題材について

図画工作の学習において主題を掴むことは、重要な学びの一つである。主題とは、表現や鑑賞の活動を通して児童が表したいイメージのことである。本題材では、アートカードの作品から形や色を基に捉えたことを指す。哲学的表現を借りるなら「世界像」のことであり、主題を掴むことは「生きていくための世界の秩序づけ」(西研2011)することと換言できよう。

本題材は、「アート・カードセット(独立行政法人国立美術館)」を教材とした鑑賞活動である。本学年は、1学期末にアートカードを使った共同的鑑賞ゲーム(カレンダーづくり、仲間みつけ)を行った。そこでは、「てつがく」科の学習効果として、対話を通して共通理解を創造しようとする身体性の萌芽をみとることができた。本時では、その身体性をより充実する手立てとして、任意のカードを4枚選び、紙芝居的に物語を展開する創作活動を設定した。本アートカードに掲載されている対象は、絵画や彫刻、デザイン、工芸、建築等、多岐にわたっており、物語を想起しやすい対象もあれば、社会性や実用性等の子どもの経験的情報だけでは、読み取りが難しい対象も含まれる。しかしながら、感性を働かせて造形的な特色を読み取ったり、既習情報から考察したりしたイメージを基に自分なりの主題を掴んでいく鑑賞活動は、図画工作の特色的な思考様式であると考えている。そして、そこにこそ図画工作における“てつがくすること”があると考えている。

3 学習指導計画(3時間目/全4時間)

- 1次 カレンダーをつくって発表し合う(ファミリー活動)。…1時間
- 2次 「にたものさがし」ゲームをする(ファミリー活動)。…1時間
- 3次 「アート紙芝居①」をつくる(個人活動)。…1時間(本時)
- 4次 ファミリーで「アート紙芝居②」をつくって発表し合う(ファミリー活動)。…1時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

アートカードから感じ取ったり、考えたりしたことを基にアートカード紙芝居をつくる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 自分が気になるアートカードを4枚選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを選ぶ際、物語のあらすじを意識し過ぎると、活動が停滞することも考えられるので、直感的に選ぶことも添え伝える。 ・選びたいカードが他者と重なった場合は、譲り合うか、その後の活動に支障がないような方法で進める工夫をするように伝える。 ・どの時点においても、カードの取り換えは可能であるが、その際、物語の核となりそうなカードは残すようにして、総入れ替えは避けることを伝える。
2 選んだアートカードから感じたり、考えたりしたことを表す言葉や絵などを付箋紙にメモしてカードに貼る。	
3 2のカードの組み合わせを考えながら物語を創作する。この際、必要に応じてカードの取り換えをする。	
4 アート紙芝居を発表し合う。他者の声を反映させて修正したい場合は、付箋紙を上から重ねて貼って紙芝居をまとめる。	
5 新たにカードを選び新しい紙芝居をつくる。	

【引用参考文献】西研(2010)「集中講義 これが哲学—いまを生き抜く思考のレッスン—」河出書房新社